

急がれる

災害時の危機対応力強化

豪雨と台風で被害多発

初めて災害対策本部 避難所開設

七月の豪雨と八月の台風で伊野地区では土砂災害や倒木による交通遮断、停電が多発した。七月七日の豪雨では初めて災害対策本部を立ち上げると共に避難所を開設した。

七月七日未明から雨足が強くなり、午前5時35分、出雲市が避難指示を発令した。これを受けて、避難所開設の準備が始まり、災害対策本部役員が招集された。

避難所開設 4家族十二人が避難

避難所はJ A伊野店の和室と伊野小学校体育館。保健士を含む市職員4人が派遣されたが、トイレや照明スイッチ、机イスやござなどがどこにあるかわからないので、地元スタッフや学校職員と一緒に避難所設営

にあたった。避難者の中には車椅子使用者の人もいたが、体育館には洋式トイレが無い。多目的トイレの設置が必須だ。車椅子使用者や脚の悪い高齢者には横になれるベッドがほしいが、ダンボールベッドは届かなかった。学校の先生が体操で使うマットを持ち出し、その上にござを敷いてくれた。

道路	8件
川	8件
宅地	13件
池	3件
田	15件
畑	13件
合計	60件

土砂崩れ多発

七月七日と十二日の豪雨で、土砂崩れなどの被害は六〇件にのぼった。市道伊野本線の陥没や落石などによる交通規制はあったが、圧倒的に多かったのは土砂崩れ。そのうち、住宅に被害があったのは二件。

被害の通報がある度に現地確認に向かうのは伊野地区土木委員会（岩成久委員長外六人）。現地確認だけでなく、土のうを積んだり、応急措置もしなければならぬので、わずか七人では対応しきれない。消防伊野分団（岩成潤分団長）も出動し、対応にあたった。

防災・減災・危機対応 抜本的見直し

広域災害だったので市の対応にも限界が生じた。日中の災害だったので、地元に残っているのは高齢者・子どもがほとんど。地元の危機対応の課題もあらわになった。

伊野地区災害対策本部（錦織宏本部長）は、災害対応マニュアル作成や情報把握・共有、町内との連携強化などについて見直し作業を開始した。

防災セミナー

「未来こい!ネット」は、まちづくりセミナーの一環として、防災をテーマにしたセミナーを予定しています。多くのみなさんの参加をお待ちしています。

日時 10月17日(日)
午前9時半～11時半

場所 伊野小学校体育館

講師 日本赤十字社松江支部

テーマ(仮)
災害時の弱者支援

申込
10月12日(月)まで
伊野コミセン 0853-69-1526